

条件付き採録を通すには

情報処理学会 論文誌編集委員会

基盤グループ 主査

和佐 州洋（豊橋技術科学大学）

石を捨てることはあっても
玉を捨てることなかれ

編集委員会としては、「条件付き採録」は「採録」まで引き上げたい

著者が受け取る「採録条件と参考意見」

査読者2名とメタ査読者1名からそれぞれ示される

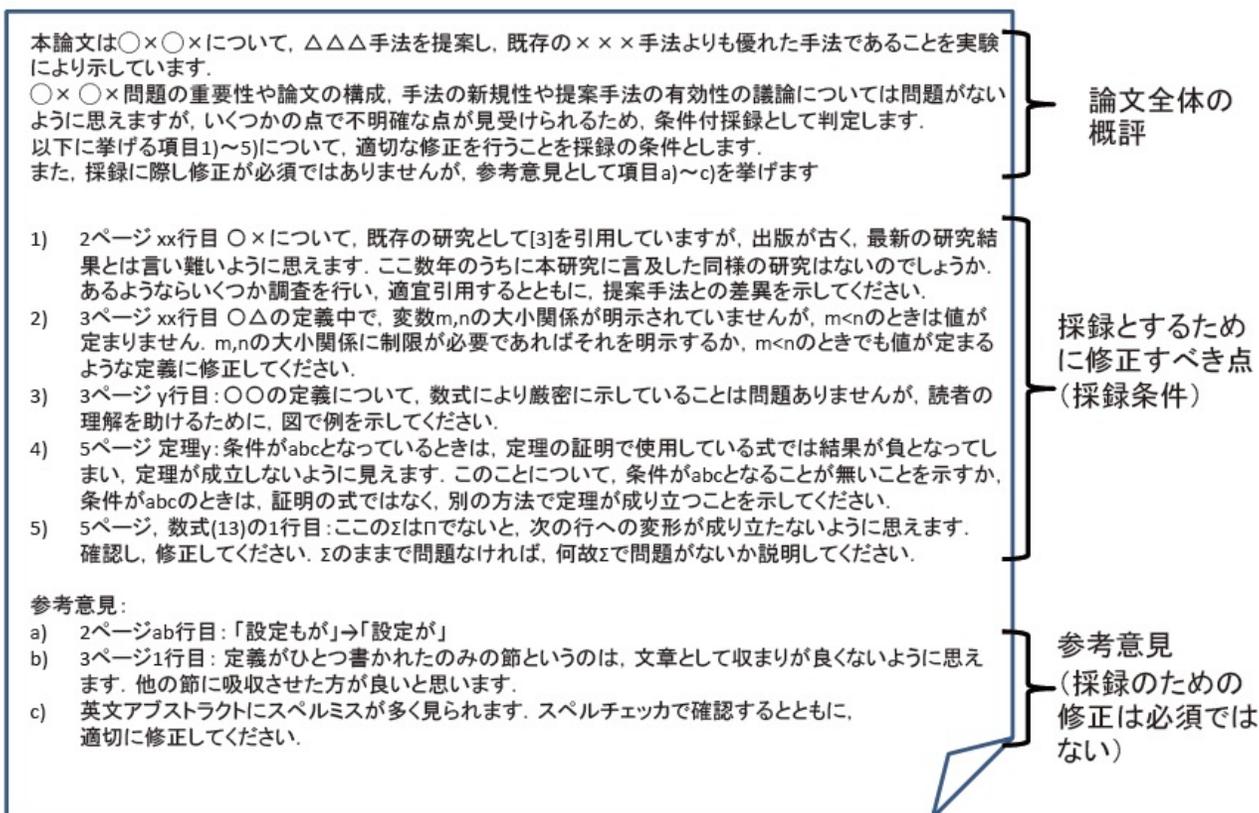


図-1 査読者から送られてくるコメント (条件付き採録の場合)

採録条件？

「これを満たせば採録」という条件

- 満たしている場合　：不採録にできない
- 満たしていない場合　：不採録にせざるを得ない

条件の妥当性は編集委員会で慎重に確認される

- 条件を満たすか明確に判断できる記述になっているか
- 厳しすぎる条件や表現になっていないか
- 矛盾した条件となっていないか
- 改訂期間で対応が可能か
- 大規模な改訂や実験は不要か

条件付き採録になったら

1. 採録条件を満たすように論文を改訂
2. 査読者向け回答書の作成

論文の改訂について

採録条件全てに対応し、参考意見にもできるかぎり対応

- 採録条件に対応していない場合の採録は難しい…
- 対応した箇所には色をつけるなどの工夫も忘れずに

条件に関連する箇所も論文の主旨が一貫するよう修正する

- 査読者が見落としている可能性も、指摘された箇所以外も確認する

指摘を受けていない部分の改訂は慎重に

- 採録条件と関係ない部分の改訂は新たな査読対象
→ 修正の必要がある場合、不採録とせざるをえなくなる可能性がある
- 誤字・脱字などは論文の主旨に影響のない範囲で

回答書を作成する

回答書の構成

1. 論文番号・論文タイトル
2. メタ・査読者への謝辞
 - コメントによって論文の質は向上しているはず
 - 互いに敬意を持って
3. 全てのコメントへの返答
 - メタ査読者，両査読者個別に

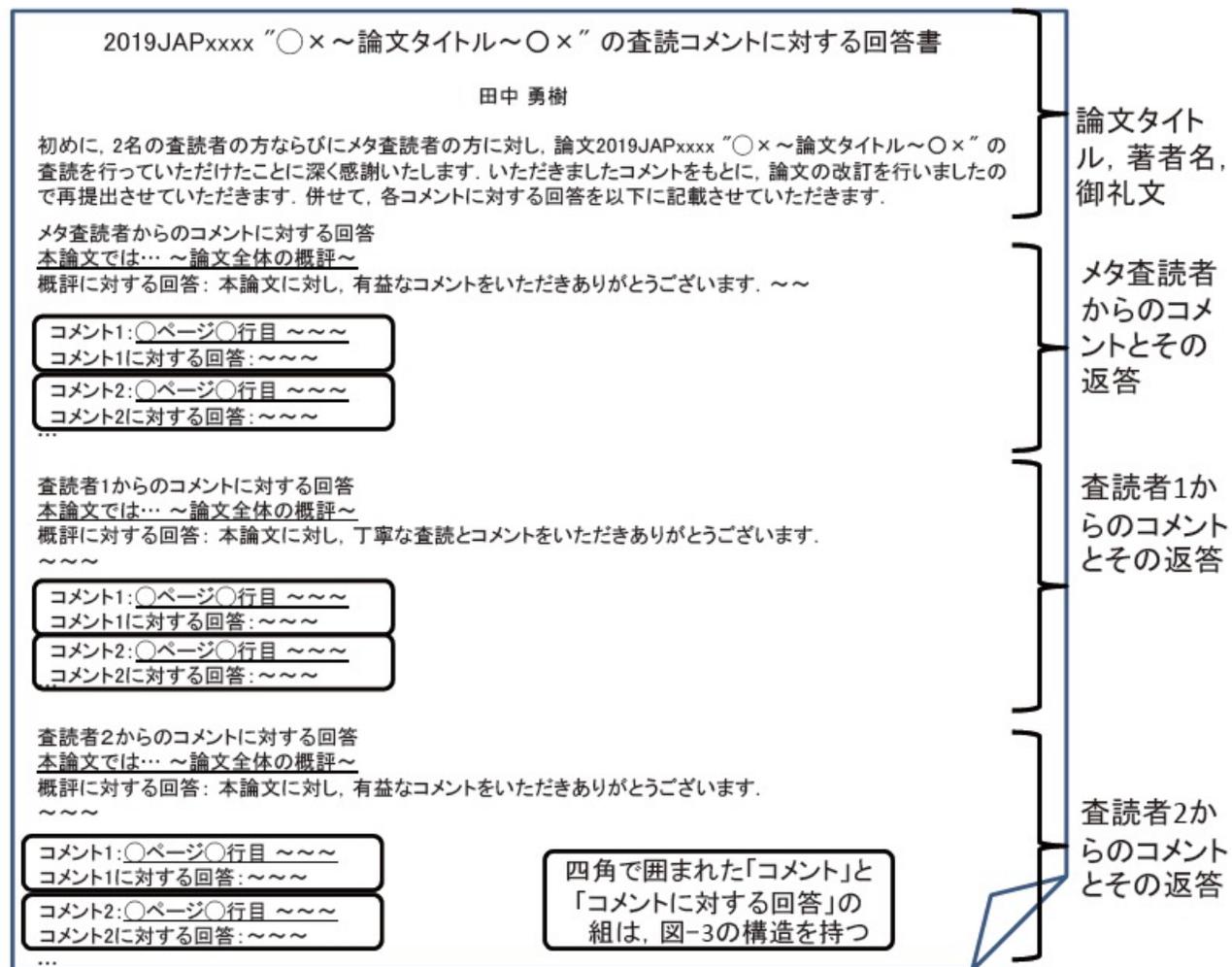


図-2 回答書の全体的なフォーマット

査読者にとって望ましい回答書

1回目査読で指摘した採録条件を容易に思い出せる

- 期間が空くので査読者は忘れてることが多い
- 改訂論文を読まずに思い出せるのが理想

採録条件をどのようにクリアしているか容易に理解できる

- 本文に書くと蛇足になるが、査読者の理解を助ける文は記述して良い
- 特に、査読者が誤解している場合に有効

改訂論文と初稿にどのような差分があるか容易に理解できる

- 差分が明示してあると査読者の負担が減る = 誤読が減る
- 特に、条件にない部分の改訂は注意深く記述する

採録条件・参考意見に対する回答例

回答を見るだけで、どのように対応したか分かるようにする

- 査読者からのコメント
- 著者からの返答
- 論文の改訂部分の抜粋

コメントx:○ページ, ○行目:○×について, ○○だけではなく△△となる場合も考えられます. 後者の場合はどうなるか説明してください.

コメントxに対する回答: ご指摘ありがとうございます. 当該箇所では○×について, ○○に関する結果のみを示していますが, ご指摘の通り, △△については言及が不足しておりました. △△の場合結果が○△□となることを説明する文章を本文○ページ, ○×行目に追記いたしました. ご確認ください.

改訂箇所: ○ページ, ○×行目:
また, △△となる場合, ~中略~ よって, ○△□となる.

査読者からのコメント(そのまま引用すること)

コメントに対する御礼と, コメントに対する返答文

改訂版の原稿で修正した部分の抜粋

*この例では紙面の都合上, 改訂箇所の例示部分で「~中略~」としているが, 実際の回答書ではこのように省略せず, 当該部分を改訂版の原稿から過不足なく抜き出してくること

図-3 査読者からのコメントに対する回答の例

対応の難しい採録条件への対応例

査読者が内容を誤解している場合

- 誤解であることを理論立てて説明する
- 誤解を招いた個所への追記や校正などを行う

査読者が著者と異なる意見を持っている場合

- 査読者の意見が適切：改訂論文に取り入れる
- 著者の意見が適切：回答書で丁寧に説明。場合により改訂論文でも言及

不採録と判定した査読者がいた場合

- 不採録理由を採録条件とみなし，改訂する
- メタ査読者が不採録理由から適宜抜粋し，採録条件とすることも多い

異議申し立て制度

査読結果に不服がある場合は、異議申し立てができる

- 1度に限り、不採録決定日から30日以内
- 書面で編集委員会に送付（決まった書式はない）
 - ✓ただし、投稿論文の修正はできない

異議申し立てが・・・

- 認められたら、査読のやり直し・判定の変更
- 認められなければ、不採録判定の維持

さいごに

編集委員会は「石をひろっても・・・」の精神

- なんとかして「条件付き採録」を「採録」に引き上げたい
- メタ査読者・査読者・編集委員会は、著者の敵ではない

論文の改訂と回答書の作成は丁寧に行う

- 査読者には気持ちよく「採録」を選んでもらおう
- 採録へのハードルは低い！

石を捨てることはあっても
玉を捨てることなかれ